

臨海実験所を後にする

小 牧 総江子（臨海実験所）



臨海実験所にお世話になって早いもので20数年が経ちました。いろいろな事がありました。水族館が1971年に閉館となり、実験所百年記念が1987年に行われ、1994年には新しい研究棟が完成いたしました。その間所長が5人も代りましたが私は諸々の事情で定住を続けて来ました。これまで特に何事もなくやってこられましたのは大学の職員の方々の御協力があったればこそと感謝致して居ります。この場をお借りして御礼申し上げます。

この地に生れ育った私は幼稚園時代の遠足（水族館）から始まり、高校時代は実験所の故、恵利恵先生に生物を学び、同じく大羽 滋先生に教えを受け、そして女子大の生物在学中は臨海実習でここのお世話になり、卒業後の就職先の埼玉大学で先生に代ってウニをもらいに来たり、退職後のアルバイト先の東京農工大学の日高敏隆先生（現京大）の紹介でここに勤務することになったのは1970年の秋でした。職種は事務系に変わりましたが、どっかりと腰を落ち着けて20数年、戦に果てた三浦一族の城跡に住みながらのあっという間に過ぎた年月を振り返り油壺の臨海実験所との不思議なえにしに感慨を覚えずにはいられません。今後持ち前の強情さで海外での生活をインジョイしようと思います。

お別れに際して皆様の耀きをお祈り致します。

